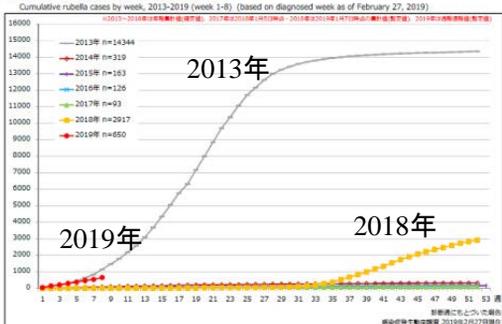


風しん 第5期定期予防接種を受けましょう。

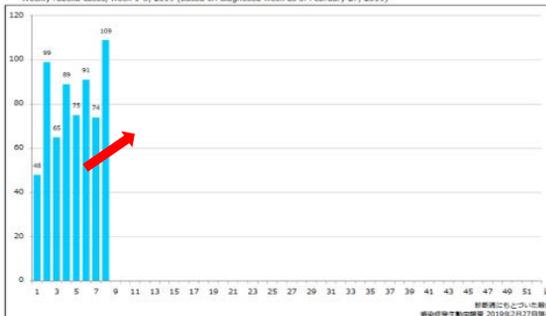
- 1 風しん(3日はしか)とは * 地対協リーフレット参照
- 2 風しんの流行

2013年に国内大流行あり。2018年から感染拡大

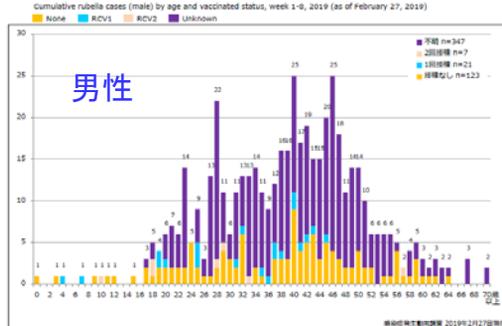
1. 風しん累積報告数の推移 2013~2019年 (第1~8週)



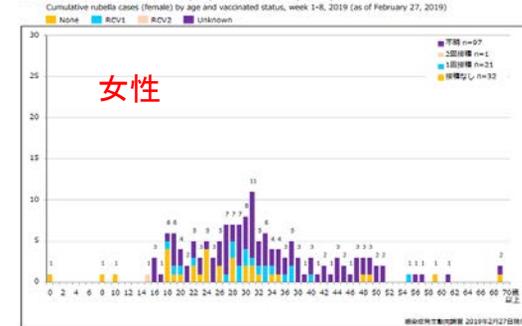
2. 週別風しん報告数 2019年 第1~8週 (n=650)



5-1. 年齢別接種歴別風しん累積報告数 (男性) 2019年 第1~8週 (n=498)



5-2. 年齢別接種歴別風しん累積報告数 (女性) 2019年 第1~8週 (n=151)



3 先天性風しん症候群 (CRS)

風疹の流行年とCRSの発生の多い年度は完全に一致している。流行期における年毎の10万出生当たりのCRSの発生頻度は、日本で1.8 ~ 7.7。2013年32例、2014年9例、その後なし
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansenohanashi/429-crs-intro.html>

4 風しん排除への国の対策

<https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/kikikanri/H30/1-02.pdf>

- ① 風しんの届出及び発生時の対応に関する省令・予防指針の改正 (平成30年1月1日公布)
 - ・全数報告
 - ・1例でも積極的疫学調査
 - ・遺伝子検査

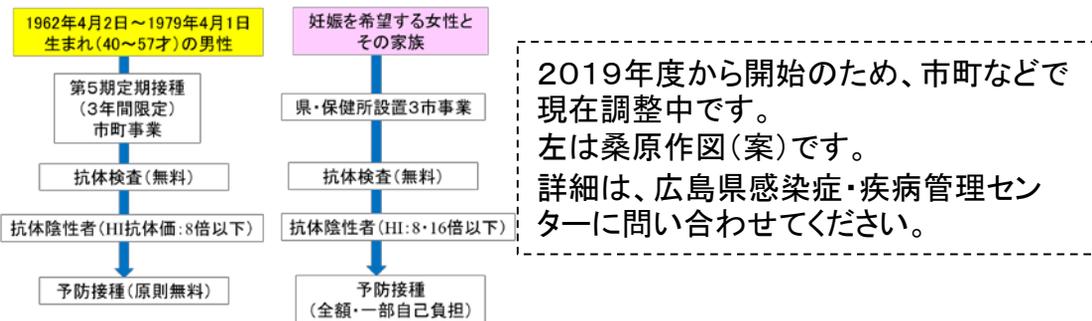
② ガイドラインなど

「職場における風しん対策ガイドライン」

<https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/rubella/kannrenn/syokuba-taisaku.pdf>

- ③ 第1、2期定期予防接種率の向上
- ④ 風しん抗体検査事業 (妊娠を希望する女性と同居者に、費用助成)
- ⑤ 第5期定期予防接種の開始 (定期予防接種がない)

日本医師会 <http://www.med.or.jp/doctor/kansen/rubella/008503.html>



6 広島県医師会から県民の皆様へ

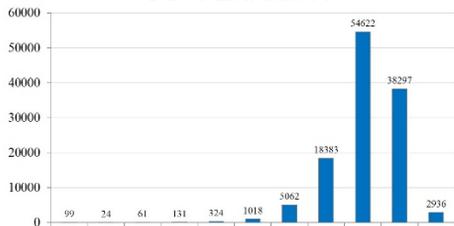
- 1) 風しんが流行しています。特に若い人が多く罹っています。
- 2) 発熱、発疹、リンパ節のはれが主な症状です。風しん含有ワクチンを2回注射していることが母子手帳で確認できる人やすでに罹った人は罹りませんが、それ以外の人で風しんに罹ったかなと思う人は、事前に医療機関に電話して、受診してください。マスクも忘れないでください。
- 3) 風しんワクチンを受けてください。
- 4) 妊娠を希望される人は、風しんワクチンを受けたら、2か月間は妊娠できません。妊娠中は風しんワクチンは打てません。

高齢者の肺炎球菌ワクチン定期接種は2019年度も続きます

1 肺炎球菌

- ①肺炎球菌による重大な感染症は、肺炎、敗血症、髄膜炎
- ②高齢者は年齢を増すごとに肺炎(誤嚥性肺炎が多い)に罹り易く、死亡率も高くなる。
- ③肺炎の原因で最も多いのが肺炎球菌で、20~40%を占める。

肺炎による死亡者(平成27年、全国) 人口動態調査



入院した市中肺炎(CAP)の原因微生物

Year	Site	No. of patients	肺炎球菌 %	インフルエンザ菌 %	% Staphylococcus aureus	% Klebsiella pneumoniae	% Other GNB	マイコプラズマ %	% Chlamydia pneumoniae	% Legionella spp.
1994-1997	Kurashiki	326	23	7	2	4	3	5	3	1
1998-2003	Kurashiki	400	26	13	3	2	2	9	7	2
1999-2000	Multicentre	232	25	19	3	1	0	5	6	4
1999-2002	Fukuoka	227	20	9	7	2	7	7	4	0
2001-2004	Kurashiki	349	24/39c	6	1	1	2	11	3	1
2004-2006	Nagasaki	88	-/18c	16	7	0	0	5	-	0
2007-2008	Tokyo	102	22/30c	8	0	2	4	1	3	1
2009-2010	Osaka	170	-/18c	4	5	4	14	9	6	0
日本の平均		1894	24/26c	10	3	2	4	8	5	1

Leon Peto et al. Trans R Soc Trop Med Hyg. 2014; 108(6): 326-337

2 肺炎球菌ワクチンとその効果

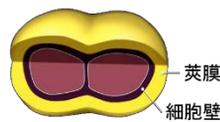
①現在は、プレベナー13(結合型)、ニューモバックス(多糖体)の2商品

②高齢者の肺炎球菌ワクチンの定期接種

・今まで成人用肺炎球菌ワクチン(23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン)を接種したことがない方を対象に、平成26~30年度の間、1人1回、定期接種の機会を設けている。対象となる年度(65歳から5歳刻み年齢)においてのみ、定期接種としての公費助成が受けられる。

肺炎球菌ワクチン(結合型、多糖体)に含まれる血清型

肺炎球菌



血清型(=莢膜型): 90種類

プレベナー(7価)	4 6B 9V 14 18C 19F 23F
シンフロリックス(10価)	4 6B 9V 14 18C 19F 23F 1 5 7F
プレベナー13(13価)	4 6B 9V 14 18C 19F 23F 1 5 7F 3 6A 19A
ニューモバックス(23価)	4 6B 9V 14 18C 19F 23F 1 5 7F 3 6A 19A 2 8 9N 10A 11A 12F 15B 17F 20 22F 33F

肺炎球菌ワクチンの血清型カバー率

疾病	著者	年代	PCV13 血清型	PPSV23 血清型
IPD	Ubukata K et al.(2015)	2010年	73.8%	82.2%
		2012年	54.2%	72.2%
肺炎球菌性肺炎	Akata K et al.(2017)	2011年	71.4%	71.4%
		2015年	33.3%	50%
市中発症肺炎	Morimoto K et al.(2015, 2018)	2011-13年	54%	67%
		2016-17年	32%	49%
(参考) IPD	厚労科研 大石班 (2018)	2014年	44.9%	68.8%
		2015年	45.5%	67.0%
		2016年	32.0%	62.9%
		2017年	29.4%	66.7%
		2018年	32.8%	63.3%

第11回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会 ワクチン評価に関する小委員会 資料(2018年9月)

高齢者 肺炎球菌ワクチンの有効率

著者	対象疾病	対象年齢	VE (95% CI)
厚労科研 大石班 (2018)	IPD (Vaccine type)	15-64歳	60% (21-79)
		65歳以上	39% (1-63)
Suzuki M et al. (2017) (文献番号 58)	肺炎球菌性肺炎 (Vaccine type)	65歳以上	33.5%(5.6-53.1)
	肺炎球菌性肺炎 (All type)		27.4%(3.2-45.6)

第11回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会 ワクチン評価に関する小委員会 資料(2018年9月)

高齢者 肺炎球菌ワクチンの定期接種率

	65歳相当	70歳相当	75歳相当	80歳相当	85歳相当	90歳相当	95歳相当	100歳相当
H26年度	接種者数 903,804	624,406	492,306	357,483	216,844	105,300	31,949	6,157
度	接種率 42.6%	40.9%	37.2%	31.4%	27.5%	24.4%	21.9%	12.7%
H27年度	接種者数 749,073	441,240	492,203	330,513	192,150	94,627	29,487	5,178
度	接種率 38.3%	33.3%	33.3%	27.7%	23.5%	21.1%	20.2%	10.7%
H28年度	接種者数 736,802	670,773	547,497	343,779	201,398	98,610	31,049	5,700
度	接種率 40.4%	40.6%	36.8%	28.3%	23.5%	20.9%	20.7%	11.3%

- ・高齢者肺炎球菌ワクチンの有効率は良い。
- ・5年間のニューモバックス定期接種を受けた高齢者は、50%くらい
- ・23価(血清型が23入っているワクチン)のニューモバックスは、カバー率がまだ持続しているため、このまま定期接種を続けても良いと判断された。

●プレベナーは1回接種で効果持続。

ニューモバックスは5~10年後には再接種が必要だが有効な型が23あり、カバー率も高い。この2製品の使い分けは、日本感染症学会HPに掲載されている。

●県民へのメッセージ

- ①高齢者の肺炎(誤嚥性肺炎を含む)は、死因の3~4位、その最大原因は肺炎球菌です。
- ②健康寿命延伸のためにも、肺炎球菌ワクチンを受けましょう。広島県四師会でも推奨しています。